

初の出会いは高知梶が森標高 1400mの山頂部に広がる草原である。中学校 1 年時代、クラブ活動科学班行事として理科担当の故岡本盛康先生が梶が森登山昆虫探索を企画・案内して下さったときのこと、標高 800mあたりにある仏嶽寺で一泊したあくる朝、ガクアジサイの咲く緩やかなスロープをたどり、やがて幾筋か山頂部へと続く赤土の荒れた小路が現れるともうあたり一面が草原で、小路をたどらなくても草地を踏み込みながら山頂へと進むことが出来る。その踏み込みでいきなり飛び出したのがウラギンヒョウモンで、高知市などの平地ではみられなく、高知では完全に山地性のチョウだ。新鮮個体に出会うと、平地に多いツマグロヒョウモンとは異なる裏面の銀色紋の輝きが強烈なインパクトを与えてくれる。

その後、家族旅行で信州方面へと出かけるようになると、あちこちで普通に飛び交うチョウの仲間入りとなって、八重山諸島でのスジグロカバマダラがそうであるように、よほどの新鮮個体でない限りネットインを計る対象ではなく、入笠山で久しぶりに裏面が見事に銀色に輝く個体を観察して標本にしている。ビデオカメラを駆使するようになってからは、アザミを訪れる情景を狙ったりしてみるのだが、多くの場合、山の草原では風が吹いてアザミが揺れ、さらには忙しく吸蜜



Aug.19,2008 長野入笠山
ウラギンヒョウモン



80819 入笠山 ウラギンヒョウモン

するウラギンヒョウモンが、なかなかこちらの望む体勢をとってくれないなど、野外における自然状態のチョウの撮影は、終わりなくいつまでも楽しめる趣味だ。カメラだけで見事なチョウのスナップ撮影をされる友人が多いなか、筆者はもっぱらビデオカメラに頼ってしまっている。

ウスイロヒョウモンモドキの観察会当日ビデオ撮影したなかから静止画像として取り出した画像を示すが、右は羽化したばかりかと思うきれいな大型の♀。2015年7月の観察会の終盤、風当たりが少ない谷となった部分に咲くア



July 12, 2009
長峰ハチ高屋



July 12, 2009



2015/07/12
12:09



2015/07/12
13:08



2015/07/12
13:09

ザミには複数のウラギンヒョウモンが訪れており、左前翅に小さく白変異紋がみられる個体や明らかに後翅に明瞭に白い変異紋がみられる個体も



2014/09/08
12:03



2014/09/07
14:40

みる。同様の変異個体は 2014 年 9 月の信州ドライブ旅行の際、女神湖の白樺高原でも記録していて、それほど珍しい変異ではないようだ。